

題字は 泉漁連三浦会長

5 月号
No. 128

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫東水産改良普及協会
神戸市兵庫区新在家町1
発行人 三浦清太
TEL 6685-6954
編集 拓水編集委員会
発行日 毎月 30日
一部10円
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

水産試験場の

事業計画について

水試場長 井 沢 康 夫

水産関係の本年度予算について本紙四月号で、森本水産課長から紹介があった如く、水産関係予算五億三千四百余万円の内、水産試験場予算三億一千五百万円という、水産試験場にとっては未曾有の予算となった。これらとえに関係の皆様方の御支援の賜とまことに感謝のほかない次第である。

水産試験場予算三億一千五百万円の内訳は
五百万円の内訳は
明石本場移転改築費
一億六〇〇万円
日本海の試験調査船建造
八〇九四万円
内海の調査船整備費
六六〇万円
水産試験場職員費
四四二二万円
維持運営費
六五九万円
試験研究費
一〇三三万円
普及指導費
一一一万円

この一と三はこの二年間中止をしようとした試験であるが、本年新試験船をもって十一月から初めるとなると、新船は底曳方法としてともあげ式の方法をとり、ロープの底曳方法を、但馬の底曳漁法に新しい方式をもちこめるのである。本年は試験期間が五月月しかないが、予備試験の段階を、いかに早く進めたいか、という内容が、本年末から来年度にかけて、新船を利用して新しい試験に努力したいと、省力化試験、深海漁

また日本海の試験調査船(二〇トン、五〇馬力)は既に発注済十一月には仙馬の海で試験に活躍することとなる。農林水産省の試験研究の充実を図ることが必要として、本年度から試験研究が取上げられていたことは、われわれの責務の重大さを今更の如く痛感する。

本年予算は、その重点を設備の充実に指向している。試験研究予算は前年並であるが、新しい研究はできないが、来年度の飛躍を期して地道に研究を進めてゆきたい。本年度試験研究費 約一千万円

これをフルに生かして仕事を進めたい。その内容が、本年末から来年度にかけて、新船を利用して新しい試験に努力したいと、省力化試験、深海漁

この一と三はこの二年間中止をしようとした試験であるが、本年新試験船をもって十一月から初めるとなると、新船は底曳方法としてともあげ式の方法をとり、ロープの底曳方法を、但馬の底曳漁法に新しい方式をもちこめるのである。本年は試験期間が五月月しかないが、予備試験の段階を、いかに早く進めたいか、という内容が、本年末から来年度にかけて、新船を利用して新しい試験に努力したいと、省力化試験、深海漁

予報は相当高い精度を有するようになり、漁業者の利用度も大いに、更に漁況予報の範囲を広くする意味において、サワラを取上げたこと、昨年種苗生産の規模は大きくなりが、量産化の試験を実施することにしている。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

本釣の重要な対象になつて、イロイカについての調査を山口、島根等の各県と共同で行なつてイロイカの生態と資源をつかみたいと考えている。

淡水養殖種試験指導
7 淡水養殖種試験指導
8 淡水養殖種試験指導
9 淡水養殖種試験指導
10 淡水養殖種試験指導
11 淡水養殖種試験指導
12 淡水養殖種試験指導
13 淡水養殖種試験指導
14 淡水養殖種試験指導
15 淡水養殖種試験指導
16 淡水養殖種試験指導
17 淡水養殖種試験指導
18 淡水養殖種試験指導
19 淡水養殖種試験指導
20 淡水養殖種試験指導

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

漁家台帳の調査について

調査対象地区

調査方法

調査期間

調査内容

調査結果

本釣の重要な対象になつて、イロイカについての調査を山口、島根等の各県と共同で行なつてイロイカの生態と資源をつかみたいと考えている。

淡水養殖種試験指導
7 淡水養殖種試験指導
8 淡水養殖種試験指導
9 淡水養殖種試験指導
10 淡水養殖種試験指導
11 淡水養殖種試験指導
12 淡水養殖種試験指導
13 淡水養殖種試験指導
14 淡水養殖種試験指導
15 淡水養殖種試験指導
16 淡水養殖種試験指導
17 淡水養殖種試験指導
18 淡水養殖種試験指導
19 淡水養殖種試験指導
20 淡水養殖種試験指導

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

昭和三十六年度から始められていた沿岸漁業構造改善対策事業のうち、経営近代化促進対策事業は四カ年間の実施期間を終え、昭和四十一年度で一旦終了した。昭和四十二年度からは、この構造改善の一環として沿岸漁業経営近代化補正計画をたてるため、前同と同じく、いろいろな調査を実施することになり、この補正計画は、高次部長を統括して近代化す。

CODについて

CODは日本語では化学的酸素要求量といわれるが、非常に長くやこしいので、普通にはCOD(シーオーディー)という記号で表わされている。

CODとは水中の酸化されやすい物質を酸化剤により化学的に酸化した時に消費された酸素の量をPPM(ピーピーエム)といひ、単位を表わす記号で1PPMとは100万分の1であることを示す。示したものである。いかえれば、水中にある物質で酸素をとりやすい物質がどの位あるかを実験室で分析して、その量を知るために水質調査を行なう時に調査項目の一つとしてしばしば用いられる。即ちCODの数値は、その水質の良否を判断するための一つの目安となるもので、数値が高いのは水質がよくないことを示す。普通海域ではCODのみについてみると、3~4PPM以下であれば汚濁されていないものと考えられる。

昨年8月大阪湾調査時のCODは次のようになっていた。海水が始めと汚れていないと思われる瀬戸内海では1.84PPMであるが、神崎川の河口海域では10.37PPM(いずれも表面の水)となり、その地点は汚濁されていることがわかる。(詳)

本調査は、去る昭和三十七年度に本県海面漁業の構造改善を推進するに当り、全県下に亘って調査作成した漁家台帳(昭和三六・一〇・一現在)の第二次台帳(昭和四一・一一・三三現在)として作成し、その内容が、新調査の進捗状況に、いろいろの社会情勢の変化に対応できるようにすることが最大のねらいとなつており、

本調査は、去る昭和三十七年度に本県海面漁業の構造改善を推進するに当り、全県下に亘って調査作成した漁家台帳(昭和三六・一〇・一現在)の第二次台帳(昭和四一・一一・三三現在)として作成し、その内容が、新調査の進捗状況に、いろいろの社会情勢の変化に対応できるようにすることが最大のねらいとなつており、

本調査は、去る昭和三十七年度に本県海面漁業の構造改善を推進するに当り、全県下に亘って調査作成した漁家台帳(昭和三六・一〇・一現在)の第二次台帳(昭和四一・一一・三三現在)として作成し、その内容が、新調査の進捗状況に、いろいろの社会情勢の変化に対応できるようにすることが最大のねらいとなつており、

本調査は、去る昭和三十七年度に本県海面漁業の構造改善を推進するに当り、全県下に亘って調査作成した漁家台帳(昭和三六・一〇・一現在)の第二次台帳(昭和四一・一一・三三現在)として作成し、その内容が、新調査の進捗状況に、いろいろの社会情勢の変化に対応できるようにすることが最大のねらいとなつており、

海上電機の魚群探知機

担当部局	調査対象地区
本庁水産課・水試	尼崎市・西宮市・芦屋市・播磨町・加古川市・相生市・家島町
農林事務所	淡路沿海市町・但馬沿海市町
市町	神戸市・明石市・高砂市・姫路市・御津町・赤穂市

4~5月の漁海況 (内海側)

海況

4月に入って連日雨天がつづき、20日間のうち、快晴の日はわずか2日、降雨日数は16日を数え、降雨量は197.6mmで例年量(月計110.4mm)の1.8倍に達した。このような4月2月の年は、最近20年間のうちで、昭和27年(233.2mm)と昭和33年(172.2mm)に記録されている。

このため、4月は水温の上昇が速くなる時期であるが、大阪湾、播磨灘ともに4月中の昇温は中旬までほとんどとめられず、下旬にはやや回復したものの、月平均では例年より1.0°C低目を示し、5月上旬には大阪湾で15~16°C、播磨灘では14~15°Cとなる見込み。

一方、両海域の塩素量は、北部沿岸浅部では大巾に低下しているが、中部以南では例年と大差はみられない。

また、普通4月の水温上昇期には、まず植物プランクトンが増量し、その後動物プランクトンが増加する経緯をたどるが、今年はまだ冬期出現する動物プランクトンが目立ち、しかも、イカナゴ当才魚の餌料として不適な種類が3月中旬~4月中旬にかけて大量発生した。しかし4月中旬以降急減している。

以上を総合すると、4月~5月上旬の大阪湾、播磨灘の水塊は、その諸性状において隣接外洋系水と明確に区別され連続性がみとめられない。例年と比較して全般的に低温低酸素型といえる。4月下旬以降の天候回復が順調であれば、大阪湾では現在の低温傾向は比較的早く回復するが、播磨灘のうち、北部域では、低温低酸素傾向はやや長びくものと思われる。

漁況

イカナゴ今年当才魚(シンコ)の成長は、4月中ごく緩慢であった。これは前述の海況や、不適餌料の発生増量によると考えられるが、一方では、産卵期が例年より長引き、後期発生群が漁獲の主体となっているためでもある。図に、4月中旬の当才魚の体長組成を示した。昨年12月にうまれた前期発生群は、すでに65~85mmに成長しているが、その数量は少なく、今年1月中旬にうまれた後期発生群は45~65mmに成長し、漁獲の主体象群となっている。

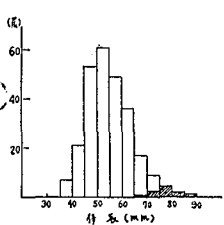
今年当才魚の漁況は例年量より1~2割上廻るものと予測されたが、4月多雨によって成長不良、不適餌料による品質低下、および加工上の制約など需要度の低下のため、出漁日数も少なく十分な漁獲をあげていない。

しかし、今年当才魚の現存量は例年よりやや多いと推定されるので、今後の水温上昇と成長とともに、親魚(フルセ)と交替して瀬付群となるころ(5月中旬~6月上旬)には60~75mmのものが多獲できそうである。

カタクチイワシ

昭和35年以降、瀬戸内海東部におけるカタクチイワシの発生量、来遊量は漸減傾向を示していたが、昨年やや上向きの兆がみとめられる。

4~5月は、主に産卵群の出現時期に当たるが、現在(4月下旬)の海況が隣接外洋系水と大きく異なるため、淡路島中部以南で停滞し、北部沿岸への来遊は例年より1旬程度おくれる模様。しかし、産卵群および外海春季発生群(シラス)の来遊量は昨年と大差ないものと思われる。



イカナゴ今年当才魚の体長組成 (瀬戸内海東部) : 4月中旬の調査結果

このように先進技術の導入を図る目的で、県では昨年来、種網と二次芽網とを冷蔵し、県内各試験地に配布する計画を、二次芽網と種網の管理と、二次芽網と二次芽網(五種芽)の二種類を、姫路市、明石市、神戸市、淡路町の四地区に配布した。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。

張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。

「小型船舶操縦士」の免許を取ろう

最近の漁業者のみなさんの勉強熱は大したものだ。その一つの現われとして「小型船舶操縦士」の免許を希望する人が激増していることがあげられる。これは以前から水試の主催、またはその音頭とりで県下各地で講習会が開かれてきたが、過去1カ年の成績を見ても、次のごとき多数の取得者を出している。

41年	6月	家島地区	93名
〃	8月	但馬地区	25名
42年	1月	淡路地区	83名
〃	4月	明石地区	31名
〃	4月	高砂地区	15名
			計 247名

これは船を大きくした人はもちろんだが(総トン数5トン以上であれば船舶職員法が適用され必要)、そうでない人、つまり釣客を乗せる人、またはこれくらいの知識は知っておいて決して損にはならないと思う人、それよりむしろ海で働こう者には常識としても絶対必要と考える人などそれぞれであるが、いずれにしても勉強しようという意欲は大したもの、世話役の水試でも大いにやり甲斐のある仕事だといっている。

講習は大体一週間程度で十分だし、もし希望があれば出来るだけ早い日に水試(指導課)に申し出て指示を受けるとよい。その上受講生が50~60人以上の多数になれば、現地で試験をしてもらえ手もあり、これなら1~2日間で試験がすみ極めて好都合である。クラブ活動の一つとしても御一考ありたい。

参考までに受験資格や最近の試験問題などをお知らせしておこう。

(小型船舶操縦士試験)

— 船舶職員法抜萃 —

1 受験資格

試験開始期日の前日までに、17才9か月に達する者で、船舶に1年以上乗船履歴を有する者。(ただし、この乗船履歴には試験開始期日の前5年以内のものが含まれていなければならない。)

2 身体検査基準

- (1) 視力
5メートルの距離で、一眼は0.5以上、他眼は0.4以上。
- (2) 紅緑色盲または青黄色盲でないこと。
- (3) 聴力
両耳ともに30センチメートル以上の距離で明らかに秒時計の秒時音をききとることができること、または5メートル以上の距離で囁語(ささやく言葉)を弁別できること。
- (4) その他疾病または身体障害があっても軽症で勤務に支障をきたさないと認められること。

3 学科試験

筆記試験で2時間。出題される問題が100題あまり決まっており、そのなかから10問がえらばれる。合格は大体65点~70点以上とする必要があるようだ。

(杉本)

ノリ網の冷蔵について

先進技術導入試験結果

最近、話題になっている海苔冷蔵網(冷蔵網ともいふ)は、ノリ網を低温冷蔵して、漁期中ならば何時でも、出して張れるという新技術である。冷蔵方法のあらましを紹介すると、ノリ芽の凍死を防ぐために、含水率20~30%の乾燥し、袋などの容器に密封後、零下10度以下に急冷後冷蔵しておく(詳しくは「海苔冷蔵網の手引き」参照)腐れの対策として、昭和三十八年に愛知県で成功して以来、全国各地にて実用化されつつある。冷蔵網の効果としては、一、病害時の替網確保、二、連作による漁期の延長、三、抑制場が整理できるなどが期待され、漁場の有効利用ができて、生産の安定なり向上を考へることができるといえる。

このように先進技術の導入を図る目的で、県では昨年来、種網と二次芽網とを冷蔵し、県内各試験地に配布する計画を、二次芽網と種網の管理と、二次芽網と二次芽網(五種芽)の二種類を、姫路市、明石市、神戸市、淡路町の四地区に配布した。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。

張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。

林崎漁協の場合

試験的に六〇枚の冷蔵網を、三枚から最高三枚まで、平均二枚の収穫をあげた。林崎漁協・海苔業者が期待された、四五名、代表高浜光治氏)の状況を、明らかに、冷蔵前に、カゲ石市農水産課の平川さんにとずねてみた。

芽の大きさは三~五種、冷蔵したノリ網は、十一月上旬に愛知から移入した。秋芽網で、芽が三~五種伸びるまで、べた流しで管理しており、この間、三回余り芽殺しを行なっている。冷蔵した時期は十一月二十三日。前日に芽の健康診断をエリスロシン染色液に漬けて調べたところ、赤く染ったのは一〇分位、とにかく健康な芽であったといえる。

張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。



当日の水温は二一度、快晴で殆んど無風状態、朝八時ごろから網をとりあげ、海岸にひらけた。

張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。張込後の成績をみると、二次芽網は芽が小さすぎた。

新鋭機出現

2周波 魚群探知機

の技術を誇る 画期的な漁業用魚探機

海上電機株式会社

サウンドグラフ

NEC

社 東京都千代田区神田1-1-9 電話 東京 (291)2611~3・8181~3
神戸営業所 神戸市生田区明石町32(明石ビル) 電話 (39)4301~(33)3706 ビル交換

沿岸漁家経済の動向について

農林省兵庫統計調査事務所

漁村では「生活はさっぱりよくなるまい」「いや以前に比べればよくなってきた」といふ声も聞かれる。このように...

(1) サワラ



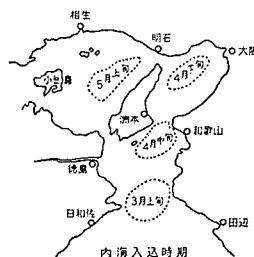
普通一般にサワラと呼ばれているものは本州南部(主として瀬戸内海)、朝鮮、中国北部沿岸に多く、遠く台湾、漳州にまで分布している。

瀬戸内のサワラは春期水温上昇と共に産卵のため入り込み、秋期水温下降と共に外海へ逸脱する回遊魚族で、大別して紀伊水道系と豊後水道系にわけられ、双方共に春期北上、秋期南下を行なう。

図(1)



図(2)



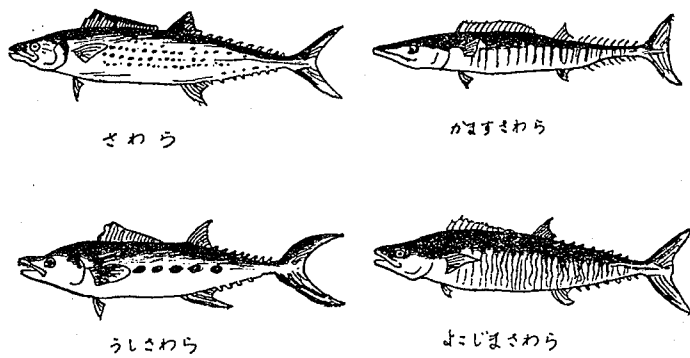
漁期は春、秋の双峰型で、春5~6月の播磨灘南西部での流刺網漁、秋9~11月の鹿の瀬周辺、大阪湾北部での底曳、縄漁、冬期12~1月の南下群を対象とした友ヶ島、鳴門南部域の曳縄漁、などで主に漁獲される。

※入込時期について

昭和39年より黒潮本流の蛇行が大きく変動し潮畔への接岸傾向が強くなり、したがってそれに伴う紀南分枝流の大阪湾への圧入が目立ち、ここ数年紀伊水道北部における3~5月の水温は2~3℃と高目に推移し、特に、本年3月の海洋観測結果では、昨年4月に形成された水温分布をすでに形成し、入り込みがかなり早くなるのではないかと考えられたが、4月に入り例年をはるかに上回るいわゆる「なたね梅雨」と称する連日の降雨に見舞われ晴天日も数日を数えたのみで、大阪湾、播磨灘への河川水の流入勢力が極めて強く、したがって内海冷水の外海張り出しも強く、外海暖水の影響による昇温がぶり、この状態が4月下旬まで続けば鳴門南部~友ヶ島南部海域での滞在が長く続く内海到達がややおくれるのではないかと見ている。

※漁況について

以上のような見直しから5月10日頃から盛漁期に入り、5月14日~20日の間、5月28日~6月3日の間くらいに好漁が期待できそうである。(水試岩井)



まづ、一般的な動向とし、されねばならない。漁家の所得から、家計費等を見れば、漁業所得と経済的負担を差引いた経済的余力は、減少の傾向にある。...

Table 1: 40年41年継続戸数の状況. Columns: 出漁, 漁獲量, 漁業所得, 労働収入, 家計費, 借入金. Rows: 前年より増加, 前年並, 前年より減少.

このことは漁業所得のみならず、雇用の減少、生活水準の指標を、エンゲル係数よりむしろ、一人あたりの家計費におくとするならば、生活の程度は向上しつつあるとみなければならぬ。

Table 2: 主要項目の比較. Columns: 階層, 年度, 継続戸数, 出漁, 漁獲量, 漁業収入, 労働収入, 家計費, 経済余力, 借入金. Rows: 無動力0~3, 3~5.

Table 3: 家計費. Columns: 階層, 年度, 家計費, うち飲食費, うち被服費, うち住居費, 1人あたり家計費. Rows: 無動力0~3, 3~5.

地域の一部漁家にあっては、家計費がかなりこと困難であるとともに、漁獲の不安と相まって、世帯費でなく資産の取得として、入りの増加を図っているともみられる。

Advertisement for Deere tractors. Text: 「いつも漁場に一番のり」ディーゼル. Images of Deere tractors and contact information for various dealerships.

